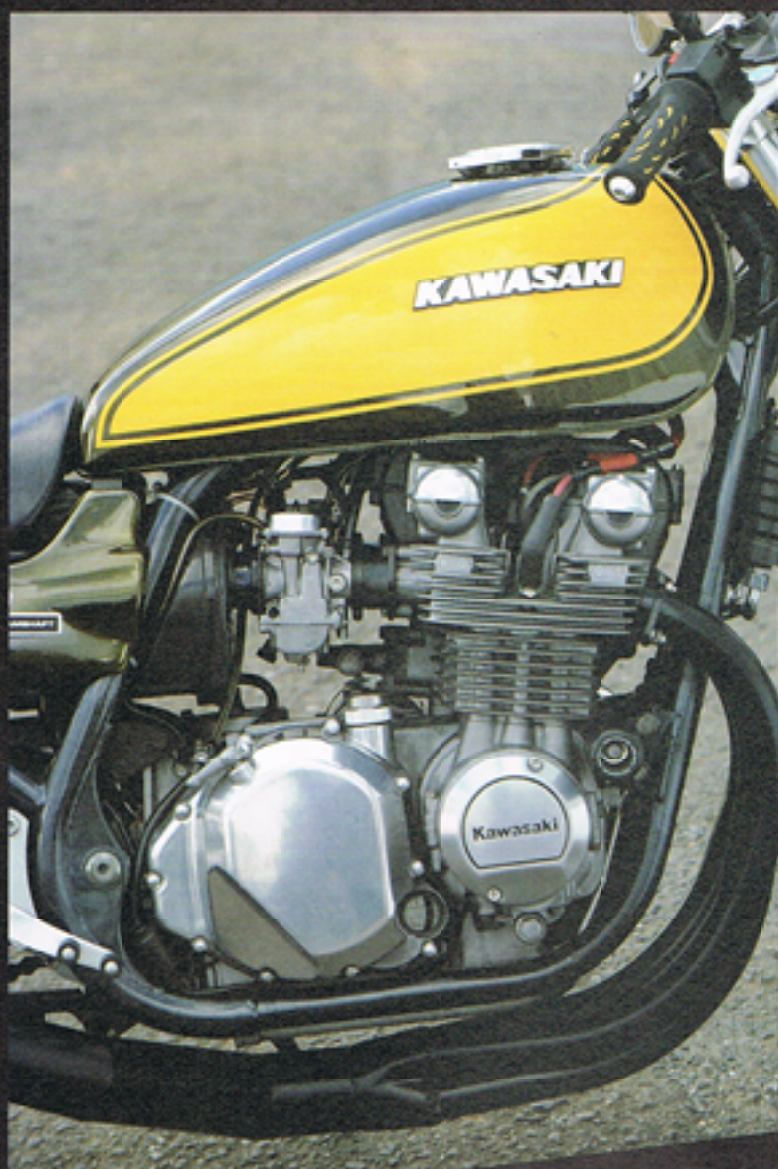


YOKOHAMA



ルックスをカスタマイズ



したZEPHYRを楽しむ



DEEP★INSIDE
YOKOHAMA KOHOKU

STYLE

ゼファーをベースにルックスを中心にカスタムした車両を販売しているショップがある。機械的なものはほとんどいじらず、バイク好きなら思わず「ほー」と魅入ってしまう雰囲気を持つ。そんなバイク達を紹介しよう。

肩肘張らないで
懐かしいスタイルを楽しむ

横浜にあるショップ、デュープ★インサイドがカスタムして販売しているゼファーは、基本はスタンダードのままで、カワサキの名車達の雰囲気を醸し出す外装を与えたもの。エンジンや足まわりを大きく変更する体育会系カスタムとは違い、肩肘張ったところがない。人気のあった旧車のテイストを気軽に楽しめる。良い意味でのゆるさがある。良い意味でのゆるさがある。ショップはそれを「横浜スタイル」と言う。



DEEP★INSIDE

〒222-0036
横浜市港北区小机町62-3
TEL 045-306-7147
10:00~20:00
定休日 水曜日



名車の香りをまとう



テールカウルも風の通りスリットとま
っている。シートはゼファーオリジナルの
ものではない。角形のメッキウインカーは
FXタイプ。

YOKOHAMA
STYLE

1983★KASIDE
KAWASAKI



ゼファーエンジン、フレーム、ドライブ
スプロケットカバーなどは常にベイン
ト。集合タイプのエキゾーストはショ
ップオリジナルのDEEP管。



ゼファーにただこの外装を載せただけ
では民上がりになり、このスタイルに
ならない。だからリアショックに純正よ
り短いものを使って調整している。



KAWASAKI Z400FX
(1980年 E3型)

初代E1は1979年発売。空冷4気筒DOHC2バルブエン
ジンのスポーツモデルで、4気筒のDOHCはクラス初。
80年代の中型4気筒ブームはここから始まった。

やりすぎないバランス
加減とカワサキの血統。

大きな排気量の丸Z、角Zで
はなく、Z400FXという
のがニクイ。見てのとおり、マ
フラーが集合管になっているの
がひと目で判るけれど、その他、
エンジン、足廻りなどは色を変
えただけに近い。それでここま
での雰囲気が出る。

もっと本物に近づけるとなると、
大手術が必要になりお金も
かかってしまうけれど、そこま
でこだわらず、Z400FXより
確実に新しく性能の良いゼフ
アーの部分の大きく残している。
そのやっっているけどやりすぎない
というバランス具合がいい。
それでもFX風に見えるのは、
きつとゼファーにも流れるカワ
サキの血統だろう。

この仕様の車両販売価格は59
万9千円、65万円ほど。

角に惚れる



FRP製の燃料タンクで、インタータンクは存在しないので、満タンにも使え6ほど充分な容量を持つ。フレームの減りが大変だったそう。



ヘッドからビレットへ直線的に伸びる近代的なザファ-1100のフレームも、このサイドカバーが際す。真鍮の減りが大変だったそう。



乗客のシートはタックロールタイプの社外品だが、スタンダードシートもそのまま使用できるように配慮し製作されている。

YOKOHAMA
STYLE

YOKOHAMA
STYLE

「これまでなかったから作った」という角Zスタイル
カワサキZの人気は、丸い燃料タンクを装着したスタイルにとどまらず、昨今は角Zと呼ばれる角張った燃料タンクのモデルも盛り上がりつつある。その筆頭がZ1000 Mk IIだ。
ショップ代表の内田氏は、そのスタイルも絶対に必要だと思いい、ゼファ-1100に装着可能な角Z外装を作り上げた。紺カラーにゴールドのラインはMk IIの国内版であるZ750 FXでも馴染み。スタンダードの姿から大きくルックスが豹変して、見事なほど角Zテイストになっている。
エンジントップのサイドが角張ったカタチをしたゼファ-1100だから、あまり違和感はない。車両価格は89万8千円から。

ゼファ-1100が大好きな人が楽しむためのカスタム



DEEP INSIDE代表
内田英明氏



Z1000 Mk II 1978年のケルリンショーで発表。翌年販売。それ以前のZ1000と前向きな同じながら多くの手が入った。フレームも変更部分がある。この国内版という位置付けでZ750FXも登場した。

ZEPHYR
750

写真のPOSHのセパレートハンドルは、高さなど位置を変えられるタイプ。それによってタンクとのクリアランスを確保している。



バックステップはBEETのスーパーバンタ、マフラーはショップオリジナルのDEEP型、ブレーキホースはメッシュタイプに変更。



テールランプもテールカウルから出すために、タンパースターも兼ねたマウントが付いている。シートは社外品。

YOKOHAMA
STYLEBEST MODS
by T. KAWASAKI

空枠の「KAWASAKI」エンブレムが付いた古き良き時代の2サイクル。メーカーは純正のままながら、ブラックアウトしている。



ゼファ750のまま、クラッチカバーなどをわざと剥離にしているのは珍あり。現代的なエアクリーターのカバーは取り外している。



シート下のキーホールも剥けていながら、ちゃんと2層になっているサイドカバー。このエンブレムも泣かせどころである。

素直に「カッコイイ」と言える姿

KAWASAKI 750RS
(1974年 Z2A型)

750RS。通称Z2が発売されたのは1973年。900Super4(Z1)の国内版と似た位置付けだった。その後すぐに750RSと似た姿を継いだZ750Foutへと進化する。22人気は今も健在。

ボールと言われるカラーの方は、セパハンやリアシヨックなど変わって走りのイメージ。タイガーカラーの方はスタンダードZイメージ。大きな外装部品だけでなく、細かなところまでこだわったもの。

イエローボールカラーの方はカスタム込みの車両価格が89万8千円から、タイガーカラーの方は69万8千円からこのスタイルが楽しめる。

ゼファ750はゼツツ(750RS)とゼツワン(900スーパー4)という昔の丸タンクZ風に仕立て上げるのにピッタリ。カムシャフトを収めているエンジントップの形状がZのように丸く、スチールパイプを使ったダブルクレードルフレームが、最もクラシックな形状をしているからである。

ゼファ750はゼツツ(750RS)とゼツワン(900スーパー4)という昔の丸タンクZ風に仕立て上げるのにピッタリ。カムシャフトを収めているエンジントップの形状がZのように丸く、スチールパイプを使ったダブルクレードルフレームが、最もクラシックな形状をしているからである。

ゼファ750のらしい所を最大限に利用する

YOKOHAMA STYLE COLLECTION

DEEP★INSIDE
TRADING JAPAN



フェックス

ドレミコレクションのZ400FX外装フルセットをZEPHYRに装着。スイングアーム、フレーム、フロントフォークアウターをブラックペイント、前後ブレーキキャリパーをゴールドにペイントしている。また、ロードウインカーアッシャーシートも社外品に変更している。



自然な丸ゼット

ZEPHYR750ベースに、ドレミコレクションのタイガーカラーのZ外装を装着。ロードウインカーアッシャーや前後にZ2ウインカーなどを装着。エキゾーストマフラーはショップオリジナルのDEEP管で、フォークアウターやスイングアームなどはブラックペイントされている。



走りの丸ゼット

ベース車両はZEPHYR750で、ドレミコレクションのイエローボールカラーのZ外装を採用。POSHのセパレートハンドル、足まわりは、モリワキのスキッドパッドとコワースのスタビライザーを装着。ステップはBEETスーパーバンク。メーターアウターを艶有リブラックにペイントしている。



人気の角ゼット

DEEP★INSIDEオリジナルFRP外装をZEPHYR1100に装着。前後にFXウインカー、エキゾーストマフラーにDEEP管を採用。フォークアウターやスイングアームなどはブラックペイントしているシートはタックロールシートタイプに変更。ステップはBEETのスーパーバンクを装着する。



**絶妙スタイルは
微妙な調整から**
レトロな姿をしていますが、ゼファーは空冷Zより20年ほど新しい。だから、変わらないように見えて立ち姿が違う。お尻が上がっているのだ。人間の目はとても正直で、そのまま外装を付けただけだと「何か違う」と思ってしまう。だから、このスタイルを構築するにあたり、キモとなったのはお尻を下げることにだったそう。もちろん、ただ下げればいいというものでもない。下がりすぎると格好悪くなる。微妙な調整がスタイルを作り上げている。